まちを照らし直す夕陽～夕陽風景時計が人をつなぐ～

１．照らす夕陽がまちを再発見

まちなかでは、太陽と月の出入りは山やビル陰で見えない所が多く、普段は注目されないが、海辺では朝陽や夕陽はひとときの感動を与えてくれる。ところが、山間にもその感動はあった。

第 6 回夢アイディア交流会（H20.11）で海岸松林遊歩道と日没時計（夕陽風景時計の旧称）設置の構想発表を聴いてくれた古賀市の「松林保全団体」は、後に地元松林勉強会でその構想をリクエストされた。ところが意外なことに、1 年 365 日の日没時刻と方位が簡単に分かる夕陽風景時計に関心が高く、H23.03 に古賀市海岸に設置され、今や古賀市の名所に格付けされている（写真 1）。

写真１：古賀市夕陽風景時計（観光雑誌）

後年、福津市の津屋崎千軒「海とまちなみの会」が、夕陽鑑賞に最適な宮地浜に、福津市発足 10 周年を記念し、バージョンアップした夕陽風景時計第 2 号を募金により H26.07 設置した（写真 2）。

写真 2：宮地浜夕陽風景時計（県広報）

具体的には、風景視界を 150 度に広げたパノラマと、夕陽が沈む前の情景として、夕陽傾斜軌道と日没 10 分、20 分、30 分前の夕陽の位置も示したものだ（図 1）。今年は、市観光マップに表示された（写真 3）。同会が、昨年開設した「津屋崎里歩きフットパス」の起点終点は夕陽風景時計で、このコースは「日本絶景の道 100 選」に選ばれた。

写真 3：福津観光マップ夕陽風景時計

さらにこの第 2 号は、宮地嶽神社から海辺に延びる参道を照らす情景を意識して方位設置を行った。毎年、10/18 頃（および 2/23 頃）には、参道を真っ直ぐ見下ろせる宮地嶽神社の階段は鑑賞客であふれる状況となってきた（写真 4）。

ニューヨークでもビルの合間を横切る夕陽の絶景は「マンハッタンヘンジ」と呼ばれており、これは正に「宮地嶽神社参道ヘンジ」といえる（図 2）。

図 1　宮地浜夕陽風景時計（150°の風景、夕陽軌道、太陽位置表示）

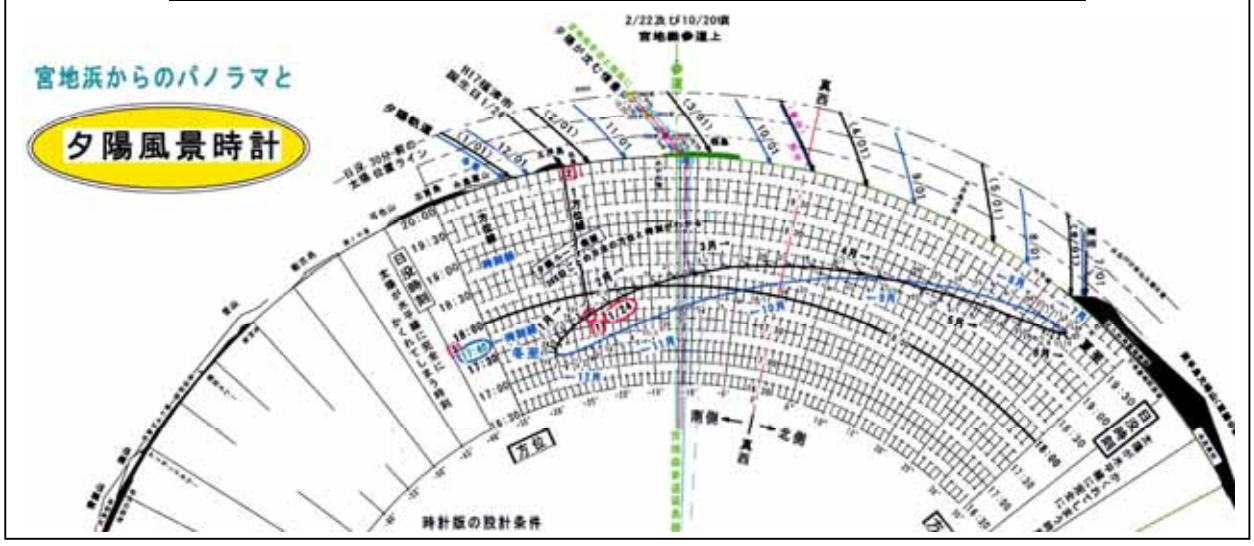


図 2 宮地嶽神社参道夕陽の読み取り

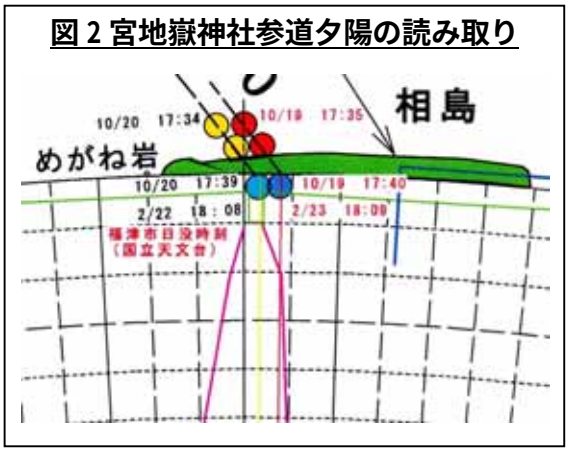


写真 4：宮地嶽神社参道夕陽鑑賞客

2．夕陽は山間の集落も照らす

唐津街道は福津市を通り、畦町宿もあるが、その存在すら知らない市民も多かった。H25 年に結成された「唐津街道畦町宿保存会」が活動を活発化させ、熱心な歴史発掘、広報も兼ねた各種催しが行われ、これらをまとめた冊子「畦町物語」が発行されたが、その中に夕陽風景の写真があった（写真 5）

これは、山に囲まれた畦町宿を見下ろす天満宮に登る階段中腹からの光景であるが、夕陽が家々の屋根を照らす平穏で暖かな情景である。

写真 5：畦町展望台からの夕陽

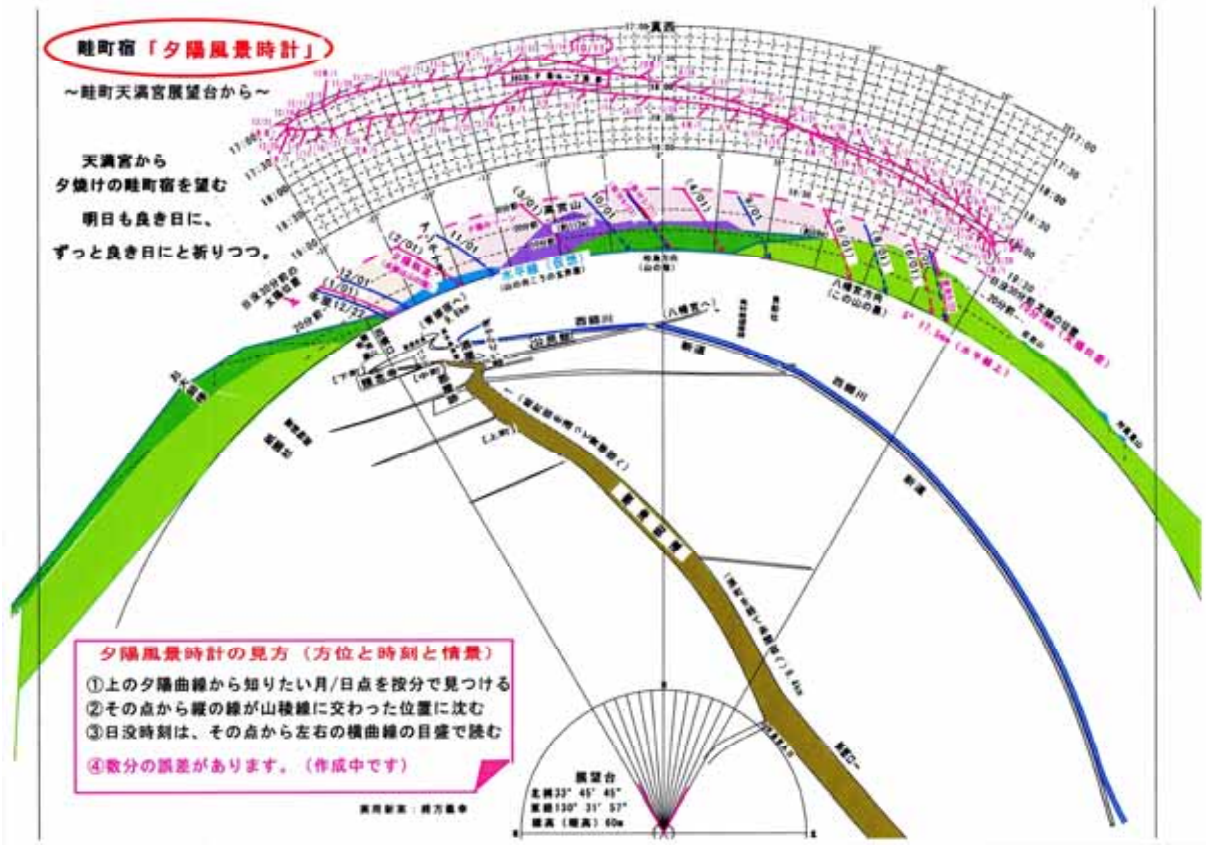
今年、保存会はそこに展望台を作るので、夕陽風景時計を設置して欲しいとの要請があった。

そもそも、夕陽風景時計の次の進化として、水平線手前の眼下に見える島々の表示計算仕組みを考えている時だったので喜んで引き受けたが、新たな課題にぶつかった。

山間用の畦町宿では、眼下の街道や集落は重要な風景だ。海辺用は、水平線手前の海面に夕陽曲線を描くが、2 つが重なるため、夕陽曲線を山より上の天空に描くこととした。また、日没は展望箇所より高い山の稜線に隠れるため、稜線高さに応じて 5～20 分早くなり、しかも軌道は傾斜するため、方位も稜線に応じ南（左側）に寄ることになる。

したがって、国立天文台情報の水平線に沈む時刻と方位を修正したため、夕陽曲線はスムーズでなく見辛いが折れ線のループとなったが、山間の貴重な情報となった（図 3）。

図 3　山間の夕陽風景時計（眼下に町並み表示、夕陽曲線を天空表示、稜線反映の夕陽曲線）



3．夕陽と夕陽風景時計が人をつなぐ

畦町の人々が言う「今まで夕陽は東から上がって西（真西）に沈むものと思っていた」「あの鉄塔に沈むのは、何月何日と何月何日ね？」「子供にも教える機会をつくろう」など、山間の集落で夕陽や山々の話題と夕陽風景時計と通しての話題が聞かれた。10/11 の畦町宿祭りに設置し説明するが、そこから郷土愛も高まることになるだろう。

「夕焼け小焼けで日が暮れて、山のお寺の鐘が鳴る、お手々つないで･････」

[参考文献]

① まるっと「宗像福津」　㈱文栄出版社、②「グラフふくおか」春福岡県県民情報広報課、③「畦町物語」唐津街道畦町宿保存会、④「福津」(福津市観光ｶﾞｲﾄﾞﾏｯﾌﾟ)福津市観光協会